



for a living planet®

WWF-Indonesia

Graha Simatupang
7th Floor, Tower 2-Unit C
Jakarta, 12540
Indonesia

Tel. +62-21-782-9461
Fax +62-21-782-9462
www.wwf.or.id

アジア・パルプ・アンド・ペーパー社 (APP 社)
CEO リンダ・ウィジャヤ 様

2013年5月31日

拝啓

2013年5月16日、ジカラハリ、ワルヒ・リアウ、WWFの協働プロジェクトであるアイズ・オン・ザ・フォレストが、スマトラ島リアウ州のAPP社の木材供給会社の伐採許可地において、深い泥炭地にある森林の皆伐が行われていることを報告しました。この皆伐は、APP社が「インドネシアの全サプライチェーンにおいて、自然林の皆伐を即時かつ全面的に中止する」という方針（森林保全方針）を2013年2月5日に発表した後に起こりました。APP社は、インドネシアの市民社会団体に対し、この木材供給企業が同社の木材供給企業であり、2013年2月1日以降の森林皆伐の一時停止を実行する企業であることも述べていました。

この報告書の発表以来、アイズ・オン・ザ・フォレストとその他の市民社会団体は、報告された自然林の皆伐が、他のAPP社の木材供給会社の伐採許可地においても継続している事をAPP社から知らされました。私たちは、APP社が自らの森林保護方針に反して、森林皆伐の一時停止から一部の地域を除外していることを知ったのです。

5月16日、APP社の代表は、市民社会団体に対し、木材供給会社の伐採許可地内の「皆伐の一時停止の除外地域」を定める地図が存在し、これらの地域では、自然林の皆伐が継続可能であり、2月1日以降に伐採された混交熱帯広葉樹を工場に供給することができると説明しました。この地図はまだ公表されていません。

APP社は、2013年2月5日に、「2月1日以降、独立した評価によって、長期的な管理プログラムのもとで保護される保護価値の高い地域が特定されるまで、全ての木材供給会社の自然林の皆伐を停止する」と述べて今回の方針を宣伝した時から、投資家、購入企業、政府そして市民社会からの多くのステークホルダーを欺いたように見えます。保護価値の高さの評価は、今日まで一つも完了していないにも関わらず、自然林皆伐が続いています。これもまた、森林保護方針に違反しています。

またAPP社は、2013年2月以降の市民社会団体との“フォーカス・グループ・ディスカッション”を通じてずっと、全ての事実を報告しているとは言えないようです。なぜなら、皆伐の一時停止の方針に例外が存在することは、2013年5月16日にアイズ・オン・ザ・フォレストが報告するまで全く共有されませんでした。

これらの事実から、2013年5月7日の「今日までのモニタリングでは、森林皆伐の一時停止は、サプライチェーン全体で継続されています」という森林保護方針の四半期報告に疑問を持ちます。

WWFは、APP社の森林保護方針には抜け穴があることを何度も警告してきました。最も重要な点は、自然の熱帯林原料を工場に受け入れることを許可し続けていることです。しかし今、私たちは、この方針の根幹である「インドネシアの全サプライチェーンにおいて自然林の皆伐を終える」が真実ではなかったことに衝撃を受けています。

APP社がこの新しい方針を市民社会団体、顧客、投資家に宣伝するために世界を周る一方で、APP社が守っていると宣伝している同じ森を木材供給会社が皆伐しています。この熱帯林の皆伐は、投資家、政府、また他の懸念を寄せるステークホルダーに対し、ある疑念を抱かせます。それは、APP社が本当に南スマトラの新工場など計画中のものを含め、全ての工場に対し十分な木材供給を確保したのかということです。



for a living planet®

ウィジャヤCEO、私たちは自然保護団体として、APP社がこの問題を解決し、自然林と炭素貯蓄量の多い泥炭地の皆伐によって得られる原料に依存しない企業となることを望みます。しかしながら、APP社の森林保護方針とその実施状況は、明らかに問題解決を保証するものではありません。

私たちは、APP社とその木材供給会社に対し、APP社と関連のある全ての伐採許可地において、即時自然林の皆伐を停止することで、自らが発表した森林保護方針を真に実行し、例外なく自然林原料の受け入れを停止することを求めます。それにより、APP社の真意への疑いを晴らすことができます。またAPP社が、この方針を実行すること、そして木材供給会社の伐採許可地内やその周辺において、地域住民と多くの脆弱な生態系へ与えた負の影響を補填することなども含め、市民社会団体によって明らかにされた方針の問題点に真剣に取り組むことに注力することを提案します。

APP社は、上記の行動によって信頼を得ることができるでしょう。

敬具

WWF インドネシア コンサベーション・ダイレクター
ナジール・フォアド

CC: 市民社会団体